

中国の発展は
中国だけでできない

量でなく質を目指す

岐阜経済大学経営学部の韓金江教授は、日本でも珍しい中国の工作機械産業の研究者だ。韓教授によると、中国の工作機械産業は今後、「量的な拡大から、質の向上へと構造転換する」という。また、政府の産業振興政策については「どの分野を進展させるにしても、NC工作機械は足りない」と指摘する。

岐阜経済大学経営学部

韓金江 教授



——中国の工作機械市場の現状を教えてください。

この数年間、中国の経済全体が減速していましたが、ここに来てモノのインターネット(IoT)関連の動きも活発になり、状況は好転しています。今後は産業構造全体が、量的な拡大から質の向上へと転換していくでしょう。工作機械も同様です。全体経済の影響は受けつつも、質を追求する方向で企業改革が進むとみえています。

——工作機械関連の統計はどんな傾向を示していますか？

中国机床工具工業協会(CMTBA)の発表によると、2016年の工作機械消費額は275億ドル(約3兆円、1ドル=109円換算)と対前年比で横ばいでした。ご存じの通り、中国の工作機械市場は2000年代に入り急伸し、12年まで伸び続けて、それ以降の3年間ほどは減速状態でした。ピークは12年の392億ドルです。16年の工作機械市場が安定していた理由は政府による貨幣政策と投資政策によるものとみられます。つまり政府による人民元のコントロールが機能し、また不動産開発や自動車産業、サービス産業などへの投資関連政策が功を奏しました。中国国内では今、観光ブームが起きていて各地に大規模なテーマパークがどんどん作られています。当然、建設機械など関連産業の需要も伸びます。また電子マネーも急速に普及しているため、決済機器の製造も忙しいようです。

——工作機械の生産高、輸入高などは？

16年の生産高は229億ドルと対前年比で微増です。切削型は、約半分の122億ドルを占め、対前年比で横ばいですね。台数で言うと、81万台中61万台が切削型となります。ちなみに輸入機は同75億ドル、同13%減でした。輸入機の内訳を見ると切削型が61億ドルで同12%減。基本的には、中国の工作機械メーカーでは作れないハイエンドの機械を日本や欧州のメーカーから輸入する形です。

Profile

かん・きんこう

2004年立命館大学大学院経営学研究科博士後期課程修了、京都創成大学(現福知山公立大学)経営情報学部に講師として着任。准教授を経て2013年に教授。2014年から現職。中国北京出身。1968年生まれ。49歳。

——今年の数字はどうなりそうですか？

全体経済に活気があるので、当然、工作機械の消費高もよい状態で推移し、対16年比で増加するでしょう。年初の統計数字を見ると、製造業全体の生産高が4%以上増加していますし、設備投資も10%ほどの伸びが見られます。けん引しているのは、自動車、スマートフォン(スマホ)、精密機械、石油化工プラントなどです。ただし、自動車もスマホも下期に減速するパターンが多いので注意が必要です。

——中国の工作機械メーカーの傾向や戦略について教えてください。

中国の工作機械メーカーは国有企業と民間企業に分けられます。中国が2001年に世界貿易機関(WTO)に加盟して以降、国有企業はリストラや資産の集約、吸収合併やグループ化などを通じて企業改革を進めてきました。彼らが戦略として重視しているのは設計開発力の強化です。海外メーカーの買収に動いたところもありましたが、あれは技術力の向上にどれほど効果があるのか見えにくいところもあります。いずれにせよ、全体的な設計開発力は向上しており、その主要因は“中国経済の国際化”と言えるでしょう。

——民間企業の動きはどうでしょうか？

まだまだ低価格帯で量的拡大を目指すメーカーが多いのが現状です。ただし、5軸マシニングセンタなどハイレベルな製品を作れるところも出てきました。ある民間メーカーは、工作機械に使う95%の部品を内製できるようになったといいます。日本の有力工作機械メーカーも、成長期においてはできる限り部品を内製し、その後の事業展開に合わせて徐々に部品を外注するようになりましたよね。内製の過程で技術力が向上したわけです。その中国のメーカーも、日本メーカーがたどった道筋をなぞって、自社の技術力を高めようとしているそうです。

——政策の傾向は？

2010年に「戦略性新興産業の育成と発展の加速に関する決定」が策定されました。文字通り、

戦略性の高い産業の育成と発展を促すものです。次世代自動車、建設機械、農業機械、ITなどが産業の成長エンジンになると考えられます。問題は、それらの分野を進展させるだけのNC工作機械が全く足りていないことです。中国国内メーカーの作る機械では信頼性の問題が解決できませんので、まだまだ輸入機に頼らざるを得ません。また、市場では自動化の需要が高まっているため「何よりもNC機を」となるわけです。そうした前提で最近注目されている政策が『中国製造2025』です。内容は既存の政策と被るところが多いのですが、IT、NC工作機械、航空宇宙、高速鉄道、次世代自動車など今後の中国経済を支えるであろう10産業を重点的に発展させようとの国策です。NC工作機械産業の発展自体も重点項目に数えられているのですが、すぐにできるものではありません。ハイレベルなCNC装置の製造が高いハードルとなっていますし、産業用コンピューターもまだまだ足りません。ソフト開発はなんとかなくてもハードが弱いですね。

——なるほど。

いずれにせよ、全産業の発展がNC工作機械に依存しているのが、工作機械市場が伸長するのは間違いありません。実質的には、日本とドイツの工作機械が必要とされるわけです。結局、中国の経済発展は、中国だけではできないんですね。経済の波の中で、たとえ工作機械市場全体の規模が一時的に収縮しても、高・中級機の市場は堅調に推移するでしょう。

——日本メーカーが注意すべきところは？

先ほど挙げた産業分野は10ありますが、問題はどの順番でどのくらい重点投資されるかです。これはその時々々の外部環境によりますので非常に読みづらい。また、日本から輸出される工作機械は機能が制限されています。高精度加工などの現地需要に対応するために、中国国内でハイエンド機が開発される可能性は十分にあると思います。

(聞き手・八角 秀)